

平成 27 年度第 1 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 27 年 6 月 30 日 (火) 10:00~11:30

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ・塚原 和哉委員 (市小学校長会) <会長> | ・丸山 剛史委員 (宇都宮大学) <副会長> |
| ・湯沢 一郎委員 (市中学校長会) | ・金田 俊男委員 (県林業センター) |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会) | ・入江 尚見委員 (公募) |
| ・田辺 陽子委員 (市PTA連合会) | ・芥川 一男委員 (公募) |
| ・村上 敬吾委員 (県キャンプ協会) | |

(事務局) 狐塚 章一所長 山口 博副所長 佐藤 洋美指導主事 矢野 学指導主事

○欠席者氏名

- 森山 公子委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)
相田美智子委員 (市レクリエーション協会)
沼尾 順市委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)
坂内 剛至委員 (ネイチャープラネット)

○公開 (傍聴者の数 0人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介 役員の選出
- 4 議 題

(1) 報告事項

- ① 平成 26 年度事業報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)
事務局 : (資料にそって説明)
会長 : 事業報告があったが, ご意見, ご質問はあるか。
協議事項について, 事務局より願います。

(2) 協議事項

- ① 平成 27 年度事業計画について (ア 学校受入事業, イ 主催事業, ウ一般受入事業)
事務局 : (資料にそって説明)
会長 : 事務局から, 重点課題 3 点について, 主に説明していただいた。
施設利用理解促進事業, 特にエンジョイサタデーの見直しについて, まずご意見をいただきたい。長い間やってきている事業で時代の流れの変化が生じてきている点, また費用の面, 勤務体制の面, 参加者が未確定の中での主催事業という問題点が挙げられ, 見直しを図りたいとあった。ご意見はないか。
入江委員 : エンジョイサタデーについて, 参加者へのアンケートはとっているのか。事前申し込みがないので参加しやすいこともあるのではないか。
事務局 : アンケートはとっていないので, 正しい情報は分からない。エンジョイサタデーは, ぶらっと来て, 体験できる良さがあると思う。しかし, 前回の会議で皆様からお話があったようにターゲットを絞る方法もあると思う。具体的な活動内容の方が参加を考えてくれるのではないか。
入江委員 : 家族をターゲットにしているのか。土曜日の休みの家族に限られてしまっている。
会長 : こんなところで, こんなことをやっていたのがよかったなど, 他のイベントに参加したことの話でもいただけるとありがたい。
入江委員 : 自然の中で, ヨガをしたことがある。独身の方も子連れの方も参加できるもので, 親子別々に体験するものであった。とてもよかった。
会長 : 他団体とのコラボといったことにつながるか。
入江委員 : 子育てサポートヨガというもので, その先生は子どもと一緒にいていた。小さいお子さんがいると大変で, なかなか外にも出られない状況になる。自然の中で, 子連れで参加できることがなかなかない。また, その会では, 感想をいう場があって, すっきりして帰っていくお母さん方の様子が見られ, とても良い会であると感じた。
会長 : エンサタについては, 事前申し込みなしで今後も行っていくのか。

- 事務局 : どのように募集していくか、この場の意見も参考に考えていきたい。
- 会長 : 今までの形態にとらわれず、募集も自由ということで、ご意見を伺いたい。
- 芥川委員 : エンジョイサタデーは年8回。利用できる土曜日にも限られている。職員の数も限られている。その中では、ターゲットを絞って催し物を企画して、定員を設けて募集してやっていくほうがよいのではないかと。また、ターゲットが絞られると、例えば、おやじの会はこの時期がよい等、それぞれやりやすい時期が決まってくるのではないかと。そうすると職員も対応がしやすいと感じる。
- また、どこか違う団体とコラボもよいのではないかと。任せてしまう方向で考えてもよいと感じる。
- 金田委員 : 8回ありきでなく考えても良いのではないかと。学校受け入れが、増加している。人の配置を考えたとき、8回はゆとりを持ってできるのか。フリーのイベントでは、成果がはっきり見えない。8回で良いのか議論を行うことが必要である。回数がすくなくともターゲットを絞ることで成果が上がると考える。
- 事務局 : 毎年8回で行っているものではない。学校利用の計画、主催事業の計画を入れて、その後、利用可能な土曜日で、できれば月に1回入れようと考えて計画している。年によって回数が違って来る。本年度は、5回の開催しかできないことになっている。
- 年度初めに広報している。また、活動内容に関しては、人気のある活動をできるだけ取り入れられるようにしている。人気のある木のぼりは2回行う予定であるが、そこで体験したことが実際にここに泊まりに来たときには木のぼりは体験できない。施設理解促進の観点からは、今後の利用につながるのか疑問が残るものである。
- 湯沢委員 : ここの良さは、環境の良さである。人を呼ぶには、虫探しなども良いのではないかと。そうした中で、いろいろな団体があるので一緒にイベントをやっていくことも良いと考える。また、ここに来て自由に遊ぶことはできるのか。利用できない場所を区分けしているのか。
- 事務局 : 自由に遊ぶことは可能である。ただし、イニシアティブゲームのウォールなどは、無断使用禁止といった表示をして区分けしている。ターザンロープは、特に制限を設けず、保護者等に見てもらい安全に気をつけながら利用していただいている。
- 湯沢委員 : ここの自然は魅力的で、ここの良さをアピールしていただきたい。例えば、中学校では、部活でチーム内の関係を良くしていこうといった理由での利用も考えられる。例えば、来週に計画したいというような場合、すぐ利用可能かどうか分かるようになっているのか。
- 事務局 : 年間19日の土曜日の学校利用がある。その際には、一般の方の利用は15時以降に制限している。そのため、一般の利用可能日数が減っている。学校が入っていないときは、受け入れをしているが、それは何かを見て分かるのではなく、電話やメールで空き状況を確認する形になっている。
- 湯沢委員 : 炊飯場もそこだけ借りるというのは可能か。部活の大会の後のレクリエーションや、次の代の立ち上げの際に利用することも良い方法と考える。
- 事務局 : 可能である。
- 金田委員 : 音楽会はできないのか。自然の中で行うことも良いのではないかと。夏に森で音楽会をやったときには、鳥や虫の鳴き声が楽器に合わせ輪唱してきたことがあり、すばらしい体験をした。そのようなことも利用のひとつの方法ではないかと。
- また、小さい子どもをひきつけるには、ミヤリーを使っても良いのではないかと。
- 事務局 : 楽器の演奏の利用は許可していない。ただし、フェスティバルの時は、森の中で音楽を楽しんでもらっている。太鼓やバイオリン、フルートなど、演奏を依頼してイベントを盛り上げていただいている。主催事業の一環として音楽を取り入れることは可能であるが、一般利用の際は、さまざまな目的でここを利用される方がいるので、楽器の演奏は、遠慮してもらっている。
- 五十嵐委員 : エンジョイサタデーではなく、サンデーでもよいのではないかと。子どもだけでは、これがない立地条件を考えると、日曜日でもよいのではないかと。土曜日、お父さん方も仕事がある方もいる。また、子ども会では、学校利用で使っている土曜日があることから、土曜日は使えないと思っている。ぷらっと来て体験するには、日曜日が適しているのではないかと。サタデーにこだわらず、サンデーも検討していただければと考える。学校5日制は崩れてきていて、私立では土曜日に行っている現状がある。
- 村上委員 : 今後の利用促進を考えると、利用促進事業を進めていくことは必要である。ただ職員の方に負担が大きくなることを考えると他の団体と一緒にやっていくことと他団体にお任せする事業があっても良いのではないかと。我々の団体ですとキャンプフェスティバルを冒険活動センターで行うなどが考えられる。ここの負担を考えると今後そのような方向も考えられるのではないかと。

- 会長 : まとめると開催日の関係のこと、募集の仕方、他の団体との連携、空き状況がわかると利用しやすい、そのようなことが挙げた。
- 事務局 : 一つ質問であるが、エンジョイサタデーは、どの辺にアピールしているのか。
- 丸山委員 : 学校へチラシを送っている。また、チラシを市民センターへ置いてもらったり、ホームページに載せたり、広報うつのみやに掲載したりしている。
- 会長 : 広報うつのみやはきちんと届いているのか。
- 芥川委員 : 全世帯に届いている。
- 入江委員 : 新聞の折り込みに入ってくる。
- 事務局 : 今はインターネットを見る機会が多く、情報を知りたいときにホームページを見るのではないか。子どもの幼稚園時代の友人が主催事業についてホームページを見たが、どう見ても分からなかったといていた。ホームページを見ることが多いので、そこを分かり易くするといいいのではないか。
- 事務局 : 広報においては、今後も努力していく。ホームページの利用も多いので、そこを見やすくしていく必要がある。
- 会長 : 学校へは1枚を印刷して配るだけでは、浸透させることは難しい。いくつかいただけると学校側はありがたい。家庭にもっていくことが、一番目につくことである。
- 事務局 : 以前はやっていたが、予算のこともあり、枚数を制限して送っている。学校まかせになってしまっているところがある。本庁で印刷を頼めるので、そこを利用していくことも考えていきたい。
- 会長 : そろそろよろしいか。事務局も今までの意見を参考にして、今後取り組んでいただきたい。
- 芥川委員 : 次に園内ハザードマップの作成について、危険箇所の洗い出しの仕方や情報の伝え方についてご意見を伺う。この点についてはいかがか。
- 事務局 : ハザードマップについて、事務局ではどんな目的でどんなことをいれて、どんなものを作りたいのか。
- 事務局 : 安全に施設を利用していただけるように、スズメバチやウルシ等の情報や知っておくと指導者やご家族の方が安心して活動ができるような内容を入れていきたい。森の中で、これ以上先に行くと崖になっているところがあり、そこで怪我をしたことがあった。現在、看板を立て注意喚起しているがマップに入れることもできる。しかし、情報が多すぎるとかえって分かりにくいことになるのではないかと考えている。
- 金田委員 : 危険箇所は認識しているのか。出し方に関しては、地図ではなかなか現場が分からないのではないか。スズメバチやウルシに関しては、看板が分かりやすいのではないか。
- 事務局 : スズメバチなどについては認識している。今でも看板で表示したり、スズメバチが来る木は、ロープで囲んだりして立ち入り禁止にして対応している。
- 芥川委員 : 紙ベースでは分からないこともある。現地に行ったときに分かる方がよいと考える。紙ベースの中にトラブル事例も地図に落とし込むことは難しい。職員の方は、紙ベースで持っていて良いのではないか。
- 金田委員 : 本来楽しむ場所であるので、あまり危険、危険と出すものはどうかと考える。
- 田辺委員 : ここの地形は、地図を見ても分からないのではないか。
- 村上委員 : 指導者は、事前には紙ベースで知っておくことも有効であると考え。事前研修段階では、紙ベースが必要ではないか。
- 会長 : 自然の中に入るのに対して、どれだけ自然の中で表示し禁止をさせるのか。
- 田辺委員 : 危険を見つける力も必要であると感じる。
- 会長 : 学校利用としてはいかがか。
- 湯沢委員 : やはりスズメバチは嫌である。危険を回避し、どう対処すれば良いかが分かっていると良いのではないか。転んですりむく程度は、冒険の一つと考える。あまり細かくやりすぎて、安全が確保されすぎた中で、遊ばせてもらっているとなってもどうかと感じる。
- 芥川委員 : 本当に危ないことに関しては、対応していかなければならない。
- 会長 : 事前の座学では、危険なことに対してどう対応するか知っておきたい。実際ウルシなど見て覚え、他の自然に行ったときにも使えるような知識を広めるためには、座学の資料として紙ベースがあるとよい。
- 会長 : ご意見いただいたことをままとすると、事前には紙ベースが必要であり、注意を喚起するにはその場所に表示や看板をつけるのが良いとのこと。参考に取り組んでいただくことでよろしいか。
- 五十嵐委員 : では、3つ目の教育効果の新尺度に関して、これからどんなものを挙げていったらよいのか。ご意見を伺う。
- 五十嵐委員 : 国のもの、国の基準のものを利用しながら、また、この件に関しては専門的なことになるので、宇大の先生と相談しながら行っていくことが良いのではないか。

- 丸山委員： 協力していく。アンケート方式は、私の専門ではないが、関係の先生と協力しながら進めていくことができる。
- 会長： 専門家の意見を聞きながら、行っていくということによろしいか。できたものに対して検討していくことによろしいか。
- 芥川委員： 大きく課題の3点について伺ったが、その他、ご意見はあるか。
- 所長： 指定管理に関して、過去に話題になったことはあった。一般利用に関しては、メリットがあるが、学校利用については、事前の相談、直前の相談も行っている。学校利用は、今のままの方がうまくいくと考える。平日は、ほぼ学校で埋まっている状況で、週末だけというのも年間計画を見ると難しい問題もある。指定管理の難しいところであろう。
- 芥川委員： なんとかうまくやっていく方法はないだろうか。生徒さん対応の部分と施設の管理面をうまくすみわけしてやっていけないか。学校教育すべてを市の職員が行うのではなく施設の管理やパトロールや修繕に関しては、違うところをお願いはできないか。
- 村上委員： 主催事業で、冒険キャンプは小学校5年生から中学生、ちびっこキャンプは小学校1、2年生が対象である。小学校3、4年生対象の事業があっても良いのではないか。野外活動に興味関心をもつ時期に当たり効果的な学年であると考えている。今後検討していただきたい。
- 所長： キャンプ協会さんは、いろいろと年代別に事業を展開していると聴いている。その情報をいただくとありがたい。
- 村上委員： 我々のキャンプ協会も年代を埋めることを考えている。ただキャンプを考えると今では、小学校1年生から3年生と4年生から中学生で行っている。是非とも3、4年生でもやっていただきたい。途切れてしまうのはもったいなく、リピーターをつなげる上でもお願いしたい。
- 会長： たくさんの意見をいただき、ありがたい。事務局は、いただいた意見を参考にし、事業を進めて欲しい。第2回目のおきも活発なご意見を願います。

5 閉 会